



# 会報 SHINSHIYOU 神私幼

平成22年3月1日

第171号

(昭和29年7月10日創刊)

発行：(社)神奈川県私立幼稚園連合会  
発行人：会長 渡邊 眞一  
編集人：神私幼総務部(広報室)  
発行：年4回(6月・9月・12月・3月)  
発行部数：1700部

<http://www.shinshiyou.com>

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F  
TEL. 045 (440) 3210 FAX. 045 (440) 3209



## かながわようちえん会館 オープニングセレモニー



### 2・3 激動の県連2年間を振り返って

難局を乗り越える力の結集を

●幼稚園連合会会長 渡邊 眞一

事業部長の言葉

- 総務部 丸山 征
- 振興部 山口繁美
- 研究部 亀ヶ谷忠宏
- 経営管理部 金子敏明
- 財務部 内藤義幸

### 4・5 12協会の2年間を振り返る

### 6 研究部 研究特別委員会に聞きました

### 7 平成二十二年度 私学補助金の概要について 貴重な補助金有効に ●振興部長 山口 繁美

連載 地域の父母連活動 鎌倉協会・相和協会

### 8 研修会報告/かながわようちえん会館 オープニングセレモニー開催/幼稚園教育経営研修会開催される

# 激動の県連2年間を振り返って

会長、各部長の先生方にこの2年の任期を振り返っていただきました。日々の各部の事業執行に加え、直面する課題に積極的に取り組みました。新年度も会員各園のご理解、ご協力を切にお願いいたします。

## 難局を乗り切る 力の結集を



県連協会 会長 渡邊 眞一

間もなく平成二十一年度役員任期の満了を迎えます。振り返ると今期前半は当会六十周年記念行事(武典・渡辺貞夫氏のジャズ演奏会・県連旗の作成・記念誌の発行など)、そして後半は永年の夢でありました幼稚園会館(かながわ幼稚園会館)の取得と、二つの大事業を県連は総力を結集してやり遂げたことに今期の大きな成果があったと確信します。

に挙げ、幼保一体化政策を念頭に入れた対策に着手するようです。今後の動向が気になります。教員免許更新も然りです。高等学校授業料が無償となりましたが、幼稚園はどうなるのでしょうか。更には私学振興費(経常費補助金など)は今のままで継続するのでしょうか不安を覚えます。一方、県内に目を向けるとこの二、三年は幼稚園入園対象児が激減傾向にある半面、保育所入所を希望する傾向が強くなっているやに感じます。時代の流れとはいえ私幼の危機です。

県財政も大変厳しい状況にあるとの報告があります。他校種に比べて経営基盤が弱い私立幼稚園が今、何をすべきか！次期の二十二年・二十三年は正念場です。会員園の団結と十二協会の連携、そして今にも増した振興活動など県連の役割と存在感が問われる次期です。公益法人改革も二十二年には結論をださねばなりません。同時に県連組織の見直しも検討する必要があります。新会館を軸の一つ一つの課題を正面から受け止め、この難局を乗り切る力を加盟園の先生方と共存したいと念じます。

### 事業部長の言葉

## 総務部



丸山 征

関東地区神奈川大会の開催、かながわ幼稚園会館のオープンと、当初予定していた事業を、会員の皆様のご支援、ご協力によって無事終了する事が出来ました。誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。特に、高畑局長をはじめ事務局員の皆様には、一方ならぬご協力を頂きました。有難うございました。ようちえん会館のオープニングセレモニーには、松沢県知事にご出席を賜り、ご講話を頂く事が出来ました。ごく細やかなオープニングセレモニーに、花を添えて頂きました。

園にとって近未来の姿が見通せない状況にあります。これからの『幼稚園』を考えた時、大きく数ある幼児教育施設の単なる一つが『幼稚園』と考える必要を感じます。そうすると、幼児の教育のノウハウを一番持っている我々は、そのノウハウを発揮し、社会に求められる姿を求めてゆかねばなりません。幼稚園と保育所の垣根が低くなつたと言われます。来年度の県福祉予算にも幼稚園の有効活用を模索する予算が付く時代なのです。

よう、今後も実施大学等とも連絡を取り合いながら、県連として必要な更新講習は用意してまいります。さらに開催するからには受講した先生方が受けてよかった、ためになったと感じられる講習内容にしていきたいと考えています。

魅力的な就職先となる為に今年度は「安定した幼稚園運営を目指して」のテーマのもとに三種の研修会を開催致しました。

有難うございました。心より感謝申し上げます。特に、高畑局長をはじめ事務局員の皆様には、一方ならぬご協力を頂きました。有難うございました。ようちえん会館のオープニングセレモニーには、松沢県知事にご出席を賜り、ご講話を頂く事が出来ました。ごく細やかなオープニングセレモニーに、花を添えて頂きました。

県下私幼の定員充足率九十%を超えているのも事実ながら、県の経常費補助金も標準運営費方式のお陰で園児割戻し額全国ダントツ最下位であつても各園の現状、危機感が無い様に思えてなりません。何とかなる事はないのです。それに気付きましょう。

俯瞰図に基づいた研究研修も定着してきました。ハンドブックも八割くらいの先生達が持参するようになりました。自分が今この学びの位置にいるのかを俯瞰してみられるメリットは大きいと思います。全日研究機構では、平成二十二年夏に行われる予定の第一回「幼児教育実践学会」の立ち上げに向けて、プレ学会が平成二十二年一月京都私学会館で行われました。第一回幼児教育実践学会は平成二十二年八月二十一日・二十二日東京家政大学で行われます。

## 財務部



内藤 義幸

## 振興部



山口 繁美

折角取得したようちえん会館、生かすも殺すも、今後の運営にかかっています。大いなる期待と楽しみでもありません。是非、ご利用下さい。

幼稚園で、どうなるの…



十年後、今の幼稚園制度の中でどれだけの幼稚園が生き残ってゆけるのでしょうか。保育所保育制度の改革、一体化、認定こども園等、幼稚

大会研究テーマである『心が響き合う幼稚園教育』が馴染んできた平成二十一年度。研修関係の気がかりは、政権交代によってせつなく軌道に乗りかけてきた免許更新講習が先行き不透明になり、すつきりしない状態のまま年度を終わろうとしていることです。対象の先生や園長先生を始め我々研究部も大変困惑している状態が今も続いています。ただ、一度動き始めた制度を覆すことは容易でなく、数年間は現行の制度が続くと思えます。その中で研究部としては神奈川県連加盟の私立幼稚園の先生方が不安になつたり路頭に迷うことのない



次年度に向けての人材確保はかがだつたでしょうか、幼稚園が

## 経営管理部



金子 敏明

- 一、事業別予算は、定款に基づき公益法人化に準拠した編成を行い、総会に提案し了解をいただいた。
- 二、補正予算は、県連所有の土地の売却、かながわ幼稚園協会・神奈川県私立幼稚園退職基金財団から協力金などにかかわる事業を中心に提案し、理事会及び総会に諮り了解をいただいた。
- 三、会費納入については、各協会のご理解をいただき期日までに全て納入していただいた。
- 四、監査は、決算及び中間監査の二回実施し、詳細にわたり諸書類に監査を受けた承をいただいた。この一年間の会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。



# 12協会の2年間を振り返る

県下全12協会の会長の先生方に、この任期2年間を振り返っていただきました。今後も、全協会が連携して県内の幼児教育振興に英知を結集して参りたいと思います。

## 1 横浜市幼稚園協会 教育内容の充実と関連する諸問題への対応

会長 金子 禎



平成二十一年度は前年度までの教育基本法及び学校教育法の改正により「幼児期の教育」の条文が新設され、平成二十一年四月より「幼稚園教育要領」が改訂施行されました。本協会としても幼稚園児の健やかな成長を願って協会主催の研究・研修を充実し、行政主催の研究・研修等に奮って参加し、園長・教職員の資質向上に努めました。

昨年の政権交代は県・市の助成金について大きな不安を持ちました。が当局から二月上旬の時点で心配していただきました助成金(案)が全て前年度同様、一部上乗せして頂けるというご案内を頂きまして感謝しているところです。

念願でありました新幼稚園会館への移転につきましては横浜協会の会議室使用について研究・研修に今までどおりの使用が出来るとの懸念がありましたが各方面のご理解を頂きましたので、新しい明るい会議室で充実した使用が出来るのではないかと楽しみにしています。

## 2 川崎市幼稚園協会 長い歴史と団結力の中で

会長 井上 久



川崎市幼稚園協会は現在市内八十五の私立幼稚園が100%加入している団体で、平成二十一年度で協会創立五十五年目の節目を迎えています。

長い歴史の中で先人の築き上げた伝統を重んじ、特に研修、研究活動、特別支援教育そして川崎市の行政、及び議会との連携を深めること等、役員が中心になって活発な活動を展開してきました。KSP(神奈川県サイエンスパーク)で毎月開催される定例園長設置者研修会では常に70%近い参加の中、懇親を深めながらも活発な情報、意見交換を行ってききました。

この二年間におきましても幼稚園をとりまく状況がめまぐるしく変化していく中で、それらに敏感に反応し正しい対応が出来た組織であったと思います。

## 3 横須賀市私立幼稚園協会 共に活動する事の大切さを学びました

会長 室北 篤郎



大きな節目の六〇周年大会、ようちえん会館の立ち上げ、横須賀では二人の二十七歳の国会議員、三十八歳の市長の誕生に立会い、次世代育成対策支援法の後期五年の策定、新型インフルエンザの対応等々、激動の二年間を過ごしました。

幼稚園を取り巻く様々な波、新年度は明るい未来でまともなところですが、教育や子育てに関する施策の一貫性の乏しさ、日本の子どもたちはどうなってしまうのでしょうか。自身もいふはば、どう時間、体力の積み重ねから、引き算を覚えないといけないと感じています。メタボな体も、引き算を。スーツにネクタイ姿で「おじさん!どこの?会社?」と園児に言われない様、本来の幼稚園教育にも専念したい思いです。

皆様を支えられ、良い勉強の機会とご縁をいただいた事を感謝いたします。協会長として経験の浅い中を、諸先輩方に助けられ任務出来ましたことを御礼申し上げます。二年間ありがとうございました。

## 4 藤沢市私立幼稚園協会 県内の大ぜいの幼稚園の先生と出会えて

会長 大竹 貞代



二年間を振り返って本日は良かった事は、「かながわようちえん会館」が竣工した事です。県連の理事の先生方と平沼の用地を見に行ったり、新しい用地の確認をしたり、あちらこちらと先生方とおしゃべりしながら歩き回って見に行ったりも、新しい「かながわようちえん会館」開設に関わり、無事に立派な会館が竣工した事は大きな喜びとなりました。また県連の会合を通じ、県内の大勢の先生方と知り合えたのも良かったです。各協会の情勢が少し分かったり、たわいもない日頃の保育の話をする中、自分の考えが確認出来たときは、大いに自分の保育に自信が持てたものでした。新しい会館が大勢の幼稚園の先生の話し合いの場になることを期待しています。

## 5 鎌倉私立幼稚園協会 多忙ながらも充実した日々

会長 中村 邦彦



平成二十一年度の県連の副会長としての役員任期も間もなく満了となり、ほっと一息つきながら、この二年間の活動を振り返ってみたいと思います。

二十年度は県連の設立六〇周年記念大会に向けての準備活動から始まりました。その時はもう前年度の役員の方々がおおよその準備をしていたので、私たちはそれを具体的に進めていくことが仕事でしたが、夫々の役割を持った実行委員の皆さんが熱心に取り組みました。お陰様で記念大会は成功裡に終わることができました。続いて公益法人問題とそれに関連した幼稚園会館建設問題では、用地や費用捻出のこと、契約や法的手続のこと、設計施行についての業社との折衝などについても、専門的な知識や豊富な経験をお持ちの実行委員の方々が適材適所に於いて活躍され、会館建設も着々と進行し、平成二十二年二月に見事オープンセレモニーを開催するに至りました。しかし、良い事はばかりでなく色々大変な事もありました。教育基本法の改定から関係法令も改定され、平成二十一年度施行の学教法の改正や教職免許法の改正に伴う教員免許更新制の問題でした。これについては、研究部長を中心に教員の研修について積極的に取り組まれて解決に至りました。私の担当は振興部でしたので、対外的には振興部長と共に県当局や、県議会議員に直接予算要望に出かけたり、全日私幼父母の会PTA連合会の大会や常任委員会、そして県父母連の常任顧問として研修大会や常任委員会などサポートをしてきました。また、県民部長を始めとして県行政の方々や県議会の幼児教育に関わりのある議員の皆さんとの教育懇談会にも積極的に参加してきました。そのほか全日私幼連の教員研修新潟大会や代表者協議会山梨大会、神奈川県大会などに参加し全国の代表者皆さんと交流を図りました。また、神奈川県つづりコーポ(県教委)幹事・県私学振興会評議員など多くの経験もさせてもらいました。対内的には会長副会長部長会議、協会長会議、常任理事会、理事会、振興部会、記念大会実行委員会、公益法人問題特別委員会、幼稚園会館特別委員会、など役職はまだ探せばあると思いますが、字数の都合上この辺で。いろいろお世話になりました。

## 6 茅ヶ崎市私立幼稚園協会 あっと驚く二年間

会長 豊田 泰治



私は十年ほど前にも同じく協会長として経営、振興部の会議に出席していましたが、この二年間は本当に変化に富んだ期間であったと思います。県連にとっては六〇周年記念の一大イベントがあり、各協会の協力により大成功を取れました。また、二十一年度には教員免許更新制度が実施されました。現職教諭や免許所有者は手続きや講習参加に追われ、協会や各幼稚園では非常に多くの情報が交錯し、その対応に苦慮しました。

そして最大のヤマ場は民主党による政権交代。(私は交代を「後退」と書いたほうが良いと思います)がまさかと思いましたが「あっと驚くタマゴロー!」となってしまうました。新政権の掲げる「子ども手当て」は果たして少子化、次世代育成など諸問題の特効薬に成りえるのでしょうか?

## 8 小田原私立幼稚園協会 冬枯れの小さな協会にも、春の息吹が

会長 岡田 薫子



昨年はお陰さまで念願の小田原協会創立六〇周年記念式典を挙げる事ができました。県連傘下の大勢の先生方には心温まるご芳情を賜わり、改めて感謝申し上げます。城下町小田原には大正時代から幼稚園が誕生。昭和二十三年には認可をとった園が組織を立ち上げ、県連第一代会長(茅ヶ崎)と共に活躍。県連史にもその旨が記載されています。

一方協会は、財政難で、先人の偉業を讀める式典は二十年/五十年全く無く、六十年を目前にして決まった快挙でした。資金繰りは大変でしたが、生前私の顔を見れば必ず「宜しくお願ひしますね」と挨拶された故本多妙子大先輩の声を聞くと、頑張り甲斐がありました。地方分権の進む「冬枯れの小さな協会にも、やがて温かい春の息吹が」と希望を繋いでいます。

## 7 湘東地区私立幼稚園協会 県連合会への皆さんに支えられて

会長 栗山 明



二年任期も早いもので、多くの貴重な思い出を残し、皆さまのお力添えで無事終了することができました。

県連合会の六〇周年記念行事も盛大に開催され、昨年の十二月完成の「かながわようちえん会館」も県連合会の今後の拠点となっていくことでしょう。ますますの発展を心から祈っております。

さて、湘東地区協会は三市一町の連合体で、毎年六月土曜日に持ちて湘東大会を開催しますが、渡邊眞一会長をはじめ、各地区協会会長先生方のご出席をいただき、本年度は永年勤続表彰三十五名を数え、松井直先生のご講演で、仲間意識を確かめました。また、十一月の湘南大会、茅ヶ崎大会では、当協会の二宮協会が研究発表を担当し、成果を上げました。これも県連合会の組織に支えられている賜物と心から感謝しております。

## 9 相和私立幼稚園協会 県の真ん中「相和協会」

会長 山口 繁美



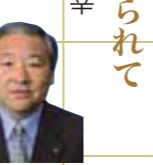
みなさん「相和私立幼稚園協会」をご存知ですか。時々相模原協会と混同されています。此処に、その存在を確認していただきたく思います。

相和協会は四市一町(大和市、綾瀬市、座間市、海老名市、寒川町)に所在する二十八園で組織する協会です。この地域には四十七の幼稚園があり、組織率五十九%の協会です。各行政単位には夫々相和未加盟園と一緒に協議会や協会があり、複数行政を抱える状況は相和協会として市町村との関わりを持つことに限界を感じています。

協会長として二年、二十八園の結び付き、情報の伝達と理解を常に考えて来ました。県下十二協会の一つの協会として、県連をバックアップし、加盟二十八園の役に立つ協会のこれからも目指して行く必要を感じます。

## 10 社団法人相模原市幼稚園協会 人と歴史に支えられて

会長 川井 俊幸



協会長を拝命し二年の月日が過ぎ去ろうとしています。何事もなく時間の経過を望んでおりましたが、そういう訳には行きませんでした。

二十年度は、先達の熱い思いから呱呱の産声を上げ四十年の年月が経ち、平成二十年十一月二十九日設立四〇周年記念式典を開催致しました。その年の時の時局に対応いただきました加盟園の皆様をはじめ、様々な人々によって支えられている事を実感いたしました。

二十一年度は、免許更新制度が発足し更新講習を協会が主体となって開催致しました。協会の人財がこぞって対応する様子は、本協会の力強さを感じるとともに設置者園長先生をはじめ教職員各位に改めて感謝の念を持った次第です。

## 11 逗葉私立幼稚園協会 一歩前進して

会長 石井 稔江



世の中は百年に一度の経済危機に陥り、この二年間日本の社会も政権交代して「変」新しい漢字に象徴されるような情勢でした。様々な場面で見やみよみ露呈し、この国がいつたどこへ行ってしまおうかと危惧することが多すぎます。

特に将来を担う子どもたちを取りまく物質的、精神的環境が「大人の短絡的・利根的都合」による急速な変貌で、「子どもにとってどうか」の視点はまるで無視されているのではと恐ろしいことです。連合会では、「幼稚園教育とは何か」の原点を問う中で、六〇周年の記念行事を開催し、長年の先達の悲願だった幼稚園会館が設立されたことは画期的であり、歴史を切り拓くものになったのではないかと実感します。

我が協会でも、心が響きあう幼稚園教育を、の県連テーマの下、七園で力を合わせて次の活動に取り組み、一歩前進となりました。

・二〇〇九年八月「三浦半島地区大会」を主催した。

## 12 厚木地区私立幼稚園協会 行政との交渉に明け暮れて

会長 小澤 俊通



ようやく二期目二年間の協会長の任期が終わろうとしています。改めてこの二年間を振り返ると、行政との交渉に明け暮れたと感じています。当地区内の厚木市と愛川町の交渉では、首長への表敬訪問や担当課への予算要望で何回も足を運ぶことになりました。

協会加盟園の園児数は減り続け、どの園も幼稚園経営に対して不安感が増えています。その不安感を少しでも解消するために、幼児教育の現場にもっと行政の光を当てるべきだと訴えてきました。私たちの願いに応えるべく、厚木市は二十一年度から「子ども未来部」を発足させ、子育てに係る窓口を一本化して頂きました。発足と同時に「預かり保育補助金」も制度化し、さらに「子育て臨時交付金」の支給も実現して頂きました。

愛川町においては、協会長一期目に町単独の就園奨励費の引き上げ、教材費補助金の制度導入を実現して頂いたものの、二期目にはこれといった進展がなく残念でありました。

多少なりとも要望が実現していくことは嬉しいことですが、まだまだ満足できる状況ではありません。引き続き、協会加盟園が一丸となり、幼稚園教育の現場に行政の光を訴え続けたいと考えています。

平成22年度当初予算(案)私学振興費

(幼稚園関係抜粋)

事業	平成22年度	対前年度比%	幼稚園関係摘要
幼稚園経常費(一般)	15,244,789	99.2%	園児単価(割戻し額) 学 法 137,611円(前年度対比 +3,742円) 非学法 31,928円(前年度対比 +3,828円) 「きめ細かな学習指導の推進」の導入⇒教員を加配
預かり保育	487,370	102.5%	[課業期間]対象園数の増 462→466園 他
地域開放	112,000	105.7%	対象園数の増 170園→180園 認定こども園加算@200,000円 20園
特別支援教育	1,089,760	104.9%	対象園児数の増 1,441人→1,511人
耐震診断調査(全学種)	35,800	83.6%	幼稚園 1,000千円(上限) 補助率2/3以内
緊急環境整備	307,855	前年9月補正	遊具、園具他及びデジタルテレビ関係
団体補助	1,730	63.4%	県連研究部研修活動補助、いじめ関連研修補助

貴重な補助金有効に

平成二十二年私学補助金の概要について

振興部長 山口繁美

平成二十二年県予算「私学振興費」の内容について、二月九日、県庁本庁舎において説明を受けました。県は来年度税収不足から多額の起債をする中、全学種の「私学振興費」は新規の「高校就学支援」もあり、前年度比較一五・一％であり、常費(一般)は増額となりました。その中に「少人数教育等きめ細かな学習指導」の導入として、今年度廃止になったティーム保育の考え方が復帰し、県の定めに当ってはまる園に教員の加配が決まりました。緊急環境整備では今年度のほぼ倍の予算が確保されました。

この成果は、県連振興部の活動を会長や幼児教育振興連盟の活動がバックアップし、又、自由民主党県連「神奈川の教育を考える議員の会」のサポートも大きいと考えられます。

加盟各園、より充実した幼稚園教育の実践をお願いします。



研究特別委員会に聞きました

研究部

研究特別委員会 A部会  
幼小連携の在り方と関わりについて  
聖マリア幼稚園 福井真理

研究特別委員会A部会は、昨年度から継続研究を行っています。二年目の今年度は、前期、後期に分け研究を進めてきました。

前期は、滑らかな幼小連携が行われるために、年長担任が自園の状況を把握・整理し、課題を明確にしていくことを目的としました。年長担任がグラウンドルールをそれぞれ作成し、ビデオ等を通して保育の振り返りを行いました。事例研究を進める中で、自園の幼児教育の特徴を明らかにし、自園にあった幼小連携の在り方をまとめ、今後の課題を協議しました。

後期は、今までの研究成果を討議した結果、まだ連携が行われていない園が多いことを受け、これから幼小連携を始める園に向けて、「はじめの一步」をどのようにしたら良いかのQ&A形式によるまとめを行うことを決めました。それぞれを目的・きっかけ・内容・効果・職員間・小学校への質問という項目に分け、研究を行いました。これをこの二年継続の研究成果としました。

研究特別委員会 B部会  
幼稚園における5歳児の育ち  
3・4歳児の経験や体験を基礎とし、一生を支える力を育む5歳児の生活  
西鎌倉幼稚園 福田光葉

本研究会は、平成十九年度より三年継続の研究であり、今年度が最終年度にあたります。

初年度より、保育実践者だからこそ記録できる事例を臨場感ある映像や写真にして持ち寄り、事例にあわられている幼児と保育者の思いを読みとりながら幼稚園での五歳児の育ちを研究してきました。本研究により、五歳児が幼稚園にいるからこそ育つことを、保育者の視点からいくつかが明らかにすることができました。すなわち、時間と空間が保障された環境において五歳児に特徴的にみられる育ちとは、「イメージを実現できる」「葛藤や問題の解決からより高次のものにチャレンジする」「仲間と折り合いをつけられる」「自分のための社会をプロデュースする」自分のため・世のため・人のため」である、という気づきを得ました。本研究の三年間の成果や考察は、平成二十二年一月におこなわれた全日本私立幼稚園幼児教育研究機構主催の保育実践学会(京都)において、ポスター展示として発表しました。

研究特別委員会 C部会  
家庭と幼稚園の連携について  
なめらかな園生活に入るために私たちができること  
鴨居幼稚園 今井恵子

「家庭から幼稚園へ」、「なめらかな園生活」となるために私たちができることは何か」をテーマに、C部会の二年間の活動が始まりました。一年目は立教女学院短大教授・今井和子先生、二年目は関東学院大教授・土谷みよ子先生からの助言指導をいただき、二十二年の先生方(平均保育年数十四年)と部会運営を行いました。

『子どもの豊かな育ち』には家庭とのなめらかな連携が不可欠との仮説から、エピソード記録や事例を基に「なめらか」とは何か、子どもの姿から見えてくる問題は何か、なめらかな連携を阻害している要因や背景は何かなどを探り、今後の連携がより良いものとなるためにはどういったら良いかに帰着しようとしているところです。多方向から意志を持って集まる先生集団の発する刺激がこの委員会の最大の良い点であり、そのことが、大きな励みを与えているように思われます。ただ今、この結論を研究紀要に載せるべく、努力致しております。

地域の父母連活動

鎌倉協会 協会と共に活発な活動を

鎌倉私立幼稚園協会 振興部長 石井 秀卓

鎌倉市内には私立幼稚園のみ23園あり、そのうち協会に加盟している22園より1名ずつ父母連代表者が選出され、幼稚園協会から正副会長及び振興部長が加わり父母連活動を進めています。毎年2回鎌倉芸術館に約600人の幼稚園児保護者が参加する「父母連研修大会」を企画開催。市長を訪問し市への要望書の提出。協会内における広報活動や市内各関係機関への委員派遣が主な活動内容です。研修大会には記念講演講師として最近では元読売巨人軍・宮本和知氏や相田みつを美術館館長・相田一人氏などをお招きし、幅広く見聞を広めて来ました。また市に対しては就園奨励費をはじめとする



松尾鎌倉市長を訪問し要望書を提出

家庭及び幼稚園や協会に対する補助金の充実。危機管理システムや補助事業に対する補助などの要望等を行っています。常に幼稚園協会と連携し市における幼稚園児及びその家庭の現状を把握し、子育てしやすい環境が整うよう活動しています。

相和協会 協会と連携した父母連活動

相和私立幼稚園協会事務局・綾南幼稚園内 田中 伸宜

相和私立幼稚園協会は大和・座間・海老名・綾瀬市と高座郡寒川町の4市1町の地域の28園が集まり、協会が運営されています。その協会と連携した組織に父母の会連合会があります。毎学期開催される団体長会では加盟園父母の会の団体長である役員と協会役員が集い、会合を持ちます。

事業としては、加盟園相互の父母の会の情報交換をはじめ、父母の会連合会研修会の企画運営、県連合会の研修会への参加、全国PTA大会への出席、総会の実施等、年間を通して活発に活動しています。とくに全国PTA大会の当日は毎年、午前中から相和地区選出の国会議員を協会役員と共に訪ね、就園奨励費補助金の堅持と増額等、保護者の教育費負担軽減の陳情等も行っています。4市1町の行政枠を超え活発な活動を展開していきたいと思っております。



相和父母連研修大会記念講演の様

研修会報告

開催日	研修名	会場	講師	テーマ	参加者数						
21年 12月1日(火)	いじめ問題研修会	かながわ 県民センター	聖徳大学教授、筑波大学名誉教授 福田 弘 先生	「自他を大切にできる子どもの育成をめざして」 — 打つ手は包む手 —	21						
22年 1月19日(火)	いじめ問題研修会	ヨコハマジャスト 1号館	聖徳大学教授、筑波大学名誉教授 福田 弘 先生	「価値観混乱時代における教育」 — 幼児教育の重要性と可能性を中心 —	29						
						1月30日(土)	教育経営研修会	かながわ ようちえん会館	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 久保山 茂樹 先生	「支援の必要な子どももすこしやしやすい幼稚園づくり」 — 特別支援教育は「つながる」教育 —	99
									大阪市立大学教授 山縣 文治 先生	「幼稚園が幼児教育施設として、生き残るために 考えなければならないこと」	
2月25日(木)	会館オープン記念講演	かながわ ようちえん会館	公認会計士、税理士、行政書士 柏谷 道正 先生	「平成22年度4月より改正の労働基準法と 就業規則」	71						

かながわようちえん会館 オープニングセレモニー開催

広報室長 鈴木 伸司

平成22年2月20日(土)午後4時より、新会館の大会議室に於いて会館オープニングセレモニーが盛大に開催されました。

県連理事、県下各協会の代表に加え横浜協会、退職基金財団の役員が見守る中、松沢県知事、渡邊県連会長、金子横浜協会長、構木退職金財団理事長の4名が厳かにテープカットを行いセレモニーが始まりました。右記のような大勢の来賓の方々と列席者を前に渡邊会長は挨拶の中で県連の歴史と事務所の変遷にふれ、会館取得に至る苦難の道のりを先達の先生方への感謝の言葉と共に表しました。式は感謝状の贈呈の後、松沢県知事から神奈川の教育政策の取り組みについての講話を伺い終了しました。

会館は会議室・相談室・キッズコーナーの整備も進み、いよいよ本格格動です。文字通り神奈川の幼児教育の発信基地となるべく今後の有効利用に期待が高まるオープニングセレモニーとなりました。

(今月号の表紙写真はオープニングセレモニーの会場の様子)

テープカット

松沢 成文 神奈川県知事  
渡邊 真一 (社)神奈川県私立幼稚園連合会会長  
金子 禎 (社)横浜市幼稚園協会会長  
構木 勝彦 (財)神奈川県私立幼稚園退職基金財団理事長

開会あいさつ

吉原 久雄 (社)神奈川県私立幼稚園連合会副会長

主催者あいさつ

渡邊 真一 (社)神奈川県私立幼稚園連合会会長

感謝状贈呈

横浜市住宅供給公社 様  
鹿島建設株式会社 様  
梅沢 健治 様  
若月 芳一 様

ご来賓・ご招待者の皆さま

神奈川県知事 松沢 成文 様  
神奈川県議会 議長 國吉 一夫 様  
自由民主党神奈川県議会議員団 団長 鈴木 恒夫 様  
民主党・かながわクラブ神奈川県議会議員団 団長 田中 肇 様  
かながわの教育を考える議員の会 代表 新堀 典彦 様  
神奈川県県民部長 水田 秀子 様  
県民部学事振興課長 水田 豊人 様  
横浜市こども青少年局長 屋代 昭治 様  
子育て支援課担当課長 伊東 裕子 様  
横浜市住宅供給公社 常務理事 田津原福男 様  
街づくり事業部長 川村 純義 様  
街づくり事業課長 小高 喜昭 様  
鹿島建設株式会社 執行役員 横浜支店長 野村 高男 様  
建築設計本部建築設計統括グループ グループリーダー 岡路 明良 様  
横浜支店 中央建築営業所 副所長 西川 俊秀 様  
// 工事事務所長 佐藤 博 様  
学校法人 岩谷学園 理事長 岩谷 伸一 様  
県政功労者 梅沢 健治 様  
香蘭幼稚園 園長 若月 芳浩 様

平成21年度神奈川県連合会加盟園数

協会名	園数	園児数	前年度園児数	前年度比
横浜	263	54,789	55,849	- 1,060
川崎	82	22,400	22,269	+ 131
横須賀	27	5,179	5,421	- 242
藤沢	32	6,196	6,062	- 66
鎌倉	22	3,282	3,316	+ 134
茅ヶ崎	18	3,744	3,661	+ 83
湘央	39	6,870	6,921	- 51
小田原	12	1,379	1,445	- 66
相和	28	5,292	5,351	- 59
相模原	34	7,798	7,970	- 172
逗葉	7	896	960	- 64
厚木	20	3,146	3,345	- 199
計	584	120,971	122,570	- 1,599

県連設立 1948年(昭和23年)

幼稚園教育経営研修会開催される

副会長 川崎市 伊藤 夏夫

平成22年1月30日(土)に、幼稚園教育経営研修会がかながわようちえん会館大会議室におきまして開催されました。「私学を取り巻く不透明な社会の流れの中で、今こそ足元を見つめ、幼児教育の質の向上と経営基盤の安定を見直そう」を研究主題に、研究部講座は「支援の必要な子どももすこしやしやすい幼稚園づくり～特別支援教育は「つながる」教育～」をテーマに、国立特別支援教育総合研究所の久保山茂樹先生にご講義いただきました。続きまして、振興部講座は「幼稚園が幼児教育施設として、生き残るために考えなければならないこと」をテーマに、大阪市立大学教授の山縣文治先生にご講義いただきました。そして、経営管理部講座は「平成22年4月より改正の労働基準法と就業規則」のテーマに公認会計士の柏谷道正先生にご講義をいただきました。3部会からなる講座から今日の課題を研修することにより、どれも各園が直面している問題解決の糸口になったのではないのでしょうか。政権交代による不透明感故に100名を超える参加者は熱心に受講されました。

また、かながわようちえん会館のお披露目兼ねての研修会に、参加者から大変立派な機能的な会館であるとの声が、あちらこちらから聞こえましたこともあわせてご報告いたします。



編集後記

バンクーバー冬季オリンピックの日本選手の活躍は私達の心を熱くさせてくれました。1秒、1センチ…、日常生活でほとんど気にならないような単位の、時間や長さにも自らの人生をかけて、競い合うその姿に私たちは感動を感じるのだと思います。そんな中、フィギュアスケート浅田真央選手の演技直後の悔し涙はとても印象的でした。インタビューに答える浅田選手を見ながら、「よくやったぞ!」「ありがとう。真央ちゃん!」と、応援せずにはいられませんでした。嘘のない真剣な姿には、人の心を打つもの凄いやパワーがあるものですね。

広報委員 川崎 永

発行

社団法人神奈川県私立幼稚園連合会  
〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25  
横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F  
TEL. 045-440-3210 FAX. 045-440-3209

印刷 (有)石黒印刷

〒232-0056 横浜南区通町3-50-1  
シティコープ弘明寺101号  
TEL. 045-713-0080 FAX. 045-713-0036